



お正月（ベトナム編）

1. はじめに

ベトナムでは、旧正月のことを「TET¹」（テト）と呼びます。TETは、ベトナム文化の中でも最も重要な祭典です。TETはベトナムの太陰太陽暦に従って春の到来（正月）を祝う行事です。TETの精神や儀式は、ベトナムの人々の中に根付いています。

2. 過ごし方

TETは、巡礼者や家族が再会するための機会でもあります。人々は、TETの期間中に、親戚を訪問し、より良い新年を願ってパゴダ²に参拝します。

3. 正月の準備

(1) 大掃除と正月飾り

多くの人は、TETを迎える2週間前から準備を始めます。まずは、大掃除。身の回りを清掃することで、装いも新たに新年を迎えようという姿勢は日本人と全く変わりません。

次に、正月飾りを家中に飾り付けます。ベトナムでは、綺麗に飾り付けられた家からは悪霊が退散すると考えられています。特に代表的な飾りは、桃の花（Hoa đào）とアプリコットの花。ベトナム人にとって、この2種類の花は、邪気を払い、人々に幸福をもたらすありがたい存在なのです。

(2) 先祖の霊に祈る

TETは先祖の霊に祈る機会でもあります。ベトナム人は、自分たちの先祖に対して強い畏敬の念を持っています。そして、TETの折には、先祖が現世に戻ってくると



正月飾り

考えられています。したがって、TETでは、故人に敬意を表して、祭壇を隅々まで丁寧に清掃します。

清掃が終わると、先祖へのお供え物として、5種類の果物（MAM NGU QUA）を飾ります。この5種類の果物は、自然界に存在する5つの物質（金属、木、水、火、土）を表すと共に、健康、平和、栄華等の新年の願いが込められています。

日本と同様に、女性は正月料理の準備と大掃除で大忙し。祭壇の清掃は、主に男性の役目です。



先祖へのお供え

(3) 正月料理

正月料理にも文化が色濃く反映されています。TETで振る舞われる正月料理は多種多様です。

代表例として、バインチュン (Bánh chưng) があります。バインチュンとは、豚肉や豆を米と混ぜ、バナナの葉で包んだ後に蒸した料理です。米の色(白)、豆の色(黄)、そして、バナナの葉の色(緑)は、文化の融合という意味も含まれています。

また、ムト (MUT) と呼ばれるお菓子も定番です。ムトとは、砂糖で煮詰めた野菜や果物を乾燥させたもの。リンゴ、カボチャ、トマト、冬瓜、バナナ、ジャガイモ、サツマイモ、ココナッツ、ニンジン等、様々な食材がムトになります。正月に実家へ帰省すると、まずはリビングに置いてあるムトを口にするのがお決まりになっています。

ハノイやホーチミン等の大都市に出稼ぎに出ている人も少なくありません。そんな人たちにとって、TETは、家族や友人と過ごすことができる大切な時間になっています。

4. むすび

人々は皆、装いも新たに、寺院や仏塔へ初詣にでかけて、一年の幸福を祈ります。子供にとっては、親族から貰える赤い袋に入ったお年玉も楽しみの一つです。



正月料理

ベトナムでは、TETの初日は一年で最も大切な日、言うなれば元旦です。TETの初日に良い行いをすれば、その後一年間は幸福が返ってくると考えられています。

「一年の計は元旦にあり」という言葉はベトナムでもそのまま通用しそうです。

- 1 正式名称は「Tết Nguyên Đán」。
- 2 ベトナムの寺院。

著者紹介

Đỗ Thị Mỹ Liên

Ms. Thi My Lien DO (チー・ミー・リーエン)

GIP ASEAN ベトナムオフィス (Havip Intellectual Property Group) 所属。

1976年ハノイ生まれ。専門は特許、意匠、商標。2001年より知的財産分野のキャリアをスタート。2004年ベトナム弁理士試験合格。2007年、2014年JPOのトレーニングプログラムで来日。2013年よりUnited GIPsに参加。

<http://gip-asean.com/>

<http://www.havip.com.vn/>

編集者

木本大介 (きもと・だいすけ)

日本弁理士、GIP東京所属。1977年神奈川県生まれ。専門は通信、電気、ソフトウェア。2005年弁理士試験合格。企業知財部3年、特許事務所7年の経験を経て2013年7月より現職。モットーは、「正しいモノより楽しいモノを」。

<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>